



生理用ナプキンにスポットで水を垂らし吸水量を調べる児童たち＝奈良市あやめ池北1丁目の近畿大付属小

## 生理のこと男女一緒に学ぶ

生理(月経)について、「きちんと知ろうー」。榎原ギが県内の小学校で出張授業をしている。性別に関係なく必要な知識として届けようと工夫をこらす。1月23日、奈良市の近畿大付属小では4年生の男女計95人がクラス別に学んだ。

「生理って知ってるかな?」と講師が問い合わせると、男子を中心に「知らないー」という声。

講師は女性の体の仕組みや、ナプキンの機能など、手際よく説明していく。

「修学旅行中に下着やズボンに血がついたらどんな気

に血がついていたら?」講師が問うと、「小さい声で教えてあげる」「自分の上着を貸して隠す」といった声。そうした場面に遭遇してもちやかすのはやめようね、と確認しあった。ほか

にも、生理は個人差があること、腹痛を伴うこともありますなどを学んだ。授業を終えて男子児童は「そんなことが起きるんだってびっくりした。知つておいた方がよい知識だと恩つた」と話し、女子児童は「生理になるのは仕方なくても、自分に合った生理用品を見つけたい」と話した。

「持ちになるかな」と問うと、「ひうしよう」「恥ずかしい」との声が上がった。

反対に、友だちのズボンに血がついていたら?」「抗感なく受け止めていた。学ぶのによいタイミングだったと思つ」と話していた。

榎原ギは生理用ショーツの製造を長年手がけており、生理に関する知識を広めたいとして、2018年から社会貢献活動として県内の中学校を回り、出張授業は約20回に上る。

### 榎原の下着メーカー 小学校で出張授業

同社の草間美帆取締役は、男子児童に何を知つてもらつか、女子と男子が一緒に学ぶ抵抗感をどう軽減するか試行錯誤してきたと話す。「授業後のアンケートで『男子と一緒に学ぶことで困ったときに助けてもらえた』といつた」と、女子児童は「授業で聞いたことが反応が多く、励みになつていい」という。(机美鈴)

### 「知っておいた方がよい」「助けてもらえそう」

ず驚いた様子だったが、抵抗なく受け止めていた。学ぶのによいタイミングだったと思つ」と話していた。

榎原ギは生理用ショーツの製造を長年手がけており、生理に関する知識を広めたいとして、2018年から社会貢献活動として県内の中学校を回り、出張授業は約20回に上る。

同社の草間美帆取締役は、男子児童に何を知つてもらつか、女子と男子が一緒に学ぶ抵抗感をどう軽減するか試行錯誤してきたと話す。「授業後のアンケートで『男子と一緒に学ぶことで困ったときに助けてもらえた』といつた」と、女子児童は「授業で聞いたことが反応が多く、励みになつていい」という。(机美鈴)